

## 平成 29 年度 女性と市長との懇談会（2 回目）

懇談テーマ：①若者の地元定着について ②防災対策について

平成 29 年 11 月 17 日(金)13:30～15:30

福岡総合事務所世代交流室

出席者 女性 9 人 8 地区

市長・政策推進部長・生活環境部長・

防災安全課長・定住推進課長

### ●市長挨拶

週末のお忙しい時期にご出席いただきありがとうございます。日頃より中津川市政に対してご理解、ご協力いただいておりますことを厚く御礼申し上げます。

あえて女性との、と付けるのは、中津川市では 15 のそれぞれの地域で市政懇談会を開催していますが圧倒的に男性が多く、どうしても意見が偏ってしまうので、あえて女性の方に出席いただき女性の目線で中津川市の市政運営にご意見をお聞きするという主旨で開催しています。

緊張しない座談会にしたいと思っていますのでお願いします。

今日のテーマは「若者の地元定着」と「防災」についてです。とりわけ若者の地元定着は若者に住んでいただく観点だけでなく子育て、教育、医療のさまざまな問題があります。このあたりについて多く意見をいただきたい。防災については、今年は避難勧告を 2 回、避難準備を 2 回出しました。現在の中津川市の防災体制の話もさせていただきます。

中津川市は合併して 13 年目を迎えています。国の財政力、地方自治体の体力が弱ってきたということで、多くの地方自治体が合併して、体力をつけて頑張ってもらいたいという国の政策として合併が行われ、このとき 427 の新しい市が誕生しました。しかし合併するとそれぞれの地域の思い、合併で損をしたという考え方があり、それぞれの自治体による制度等が同じ方向を向いて 1 つの街として前に進むことができないという状況でした。中津川市も 10 年の中で新しい街として大半の事業を成し遂げ、これからの体力を温存しスタートする計画ですが、それが思うに任せないところがありました。13 年目を迎えてようやくその形ができてきたという思いはありますが、まだまだ不十分なところもあります。そうしたところについてご意見賜ればと思っております。

大きな事業としては、現在、福岡に建設する予定で進めている新衛生センターの建設です。生活にかかわる最終処分場になります。いろんな経過がありましたが、11 月に入札を行って業者を決定して、32 年の年始めに操業開始の予定です。

老朽化した斎場の問題は、場所の選定から苦勞しています。昨年苗木にお願いして建設させていただきたいというお話をさせていただき、現所在地の方と協議させていただいております。

病院・医療の体制については、国保坂下病院、中津川市民病院と中津川市には現在 2 つの病院があり

ます。合併当初より、8万人の街でこの体制を維持していけるかは議論されてきましたが、議論がなかなか進まずにありました。そんななか、医療法の改正、医師の確保が非常に難しい状況になってきました。今後、病院を本当に維持できるのか、若い人が安心して病院にかかることができるのか、行政として医療のサービスができるのか、という観点からあり方の検討会を再度立ち上げて、1年間検討をしていただきました。その結果、現状のまま維持していくことは非常に難しい。したがって、坂下病院の形を替えて、中津川市の医療体制を整えるべきであるという方針を頂きました。この方針に従って、31年度末までには、はっきりとした結論を出す方向で進めさせていただきます。当初、坂下病院がなくなってしまうという話もありましたが、病院をなくすのではなく、市民病院の機能の充実を図るため、どうにかたちでこの2つの病院を残していくことが将来にとってベストかという観点で評価をしながら見守っているところです。

10年後リニアがまいります。リニアが来るから皆さんの生活の利便性が向上するとは思っていません。リニアをいかに活用するか。人口減少の時代になって、その課題に対してリニアを活用する。その活用方法が人口減少にストップをかける。また、若い方がこの地にとどまって、働いていただく。他の地域から中津川市へ来ていただく、そうした施策にリニアを活用するという思いで取り組みをさせていただきます。この話は、坂本の駅周辺だけでしょ、とよく言われますが、人口減少の解消、多くの方に中津川市へ足を運んでもらうことで、中津川市の活力、将来的に継続して発展のできる街をつくる。こうした思いのなかで、さまざまな施策をちりばめております。

## 1. 若者の地元定着について

### ●〇〇さん

働く場所を求めているということですが業者からの求人は増えていますか？

### ●市長

求人は多いです。県内で岐阜市、多治見市、中津川市と、ベスト3に常に入っています。求人倍率は1.6～1.8倍ですが、若い方が市内の企業の実態をあまり知らないなので、去年から小学生が親と企業見学する事業を始めました。学校の先生にも行ってもらって、企業の方にも協力いただいています。製造業といってもそれぞれの会社で職場環境も違う。モノを作るというと油っぽいイメージを持たれている場合が多いので、会社をしっかりと見ていただくことを始めています。また学校の就職指導の先生にも意外と知られていないので、中津川市の方がはるかにトップクラスの企業があるにもかかわらず、他へ就職斡旋されてしまう。

経済的指数では中津川市は製造業が盛んなイメージがあります。自分に適した仕事の選択肢を広げるために、インフラ整備や、企業誘致できる場所を確保して、中津川市にないような違った職種を誘致する計画を進めています。

### ●〇〇さん

先日加子母地区で女性懇談会が行われ、講演会で高山市の活動の話を書きましたが、子供向け職業体験会をやっているとのことでした。東京には職業体験テーマパークもあって楽しく職業を知ることがで

きるが、田舎にはなかなかそういう機会がないから、子供がいろんな職業を知る体験、親の職業を知る体験ができるといいなという話が出ていました。それをどのように進めるかはこれからの話だが、地元に残りたい、帰って来たいという気持ちを育むには、小さい頃から地元の仕事を知ることが大事だという話がありました。

●政策推進部長

中津川市では「すご技中津川プロジェクト」を去年からはじめました。今年度からはすべての小学校で実施しています。

●〇〇さん

その話も聞いたが、加子母では知らなかった。

●政策推進部長

全総学校で実施していますがすべての学年ではなく、特定の学年を対象としているからかもしれません。

●市長

アンケート結果を見ると、参加された小学校のみなさんも喜んでいただいていた。

●〇〇さん

企業訪問を小学校からやっておられるとのことでしたが、高校から娘が就職したとき、求人票から選んでいきますが、第一希望の企業しか見学ができないので、いろんな企業を見て選べるようにしていただいた方がいいです。第一希望しか企業見学に行けないのは、なるべくそこに決めてくれという学校側の意向があって、しかたないからいいか、と決めたこともあります。東美濃ふれあいセンターでも就職の説明会をやっているが、高校生はなかなか行かない。求人票だけではなかなか決められないので現場を見ることはすごく大事だと思います。

●市長

東美濃就職フェアには十何社が参加します。また恵那市と一緒にやってやったり、中津川市単独でもやっていますが、どうしても大学生が主体になります。今言われましたように、高校生がもっと選択しただけのように、決める前にもっと企業の仕事を見てもらうのが一番いいと思います。学校側も推薦した以上、第一志望で決まれば他は受けられない。後輩に影響がという思いが就職担当の先生にはあります。

中津川市は3か月前に「新はつらつ職場づくり宣言」を県内自治体で初めて行いました。組合と経営者が合意して働く環境を整える協定のようなものです。宣言をしてくれた企業は市内で30社を超えました。県下でも110社ほどです。そこで働いてみえる方は、働きやすい環境と一緒に作っていきます。中津川市でも働く環境の改善に取り組むことを宣言してくれる民間企業が増えてきましたので、多くの企業を見てもらえる機会を作りたい。

●司会

市外から中津川市にいらっしゃった方から、来て思ったこと、魅力があること、逆に足りないことなど何かご意見はないでしょうか？

●〇〇さん

市外から中津川へ来て家を建てたときの補助金があるときはなかった。市議員にも聞いたら、そのときはないとのことだったが、今はあるのでそうなんだ、と思った。いいことだと思う。

●〇〇さん

多治見市出身ですが、多治見は交通の便利が良くて自転車であちこち行けたが、今の阿木は車がないと何もできないのがすごく不便。自分が車に乗れなくなったらどうしようと、歳を取ってからが心配です。

●〇〇さん

最初、可児から中津川の市街に引っ越したときのことで、散歩道や公園があって、集まれる場所があっていいなと思った。育児にも公園のトイレにオムツ替えのところがあってよかったが、雨が降ったときに子どもを連れて行けるところがない。最近、駐車場に屋根があるところに良く連れて行きます。にぎわいプラザは駐車場が離れてて、混んで入れないときもあったり、わかりづらくて不便です。

●〇〇さん

加子母に来て30年にもなります。田舎から田舎へ来たのであまり変わりはない感じですが、交通の便が悪いかな、と思う。高校生の子供がいるがバスの本数がどんどん減ってしまっている。バス代は幾分か市に見ていただいて、何年か前の人より助かっているが本数が減ってしまった。加子母まで来るバスの本数が少ないので付知まで迎えに行ったりします。だんだんバス代は高くなるのに利便性は悪くなる。

●市長

交通の話は市政懇談会や高齢者懇談会、若者懇談会と大半の懇談会で出ます。旧郡部のような、JRの駅がなくタクシーが頻りに利用できないところでは、コミュニティバスを運行しています。最初は助かるという話になりますが、次には本数の問題、次から次へと問題が出てきます。

東濃で一番面積が小さい多治見市ではコンパクトに交通を充実することができる。東濃5市で一番面積が広く、南北に長い中津川市は1つにまとめて交通体系を作るのが難しいので、旧自治体エリアの中で、コミュニティバスの運行を、地元にお任せしたり公共交通のバス会社さん等に委託したりしているが、費用対効果の面で課題が多くあります。ただ、やめるわけにはいけないので、いかに使っていただけるかを、毎年改善を重ねながらやっています。さらに利便性を高めて運行をしていきます。

●定住推進課長

加子母では、地域の中の移動はコミュニティバスがあり、たくさんの方に利用していただいています。そこに乗り継ぐかたちで、北恵那交通さんの路線バスに連結する形になってます。やはり、乗る人が多くなれば料金は安く本数は増え、少なくなれば料金も高くなり本数は減るという悪循環的なことがあるので北恵那交通さんにも働きかけをしています。なかなか便数は増えないが、時間帯などは意見をいただいで反映できるかと思います。

●〇〇さん

自分が子どもたちの世代のときはバスを利用して高校へ行っていましたが、自分の子供はみんな親が送り迎えしています。それでだんだんバスに乗る人が少なくなったかなと思う。蛭川はどこかに出ていくときには何か乗り物に乗らないといけないが、本数が少ないと利用したいときに利用できない。障がいの子達にかかわる仕事をしているので本当に不便で、いつもそれが課題です。

●市長

導入を始めたのはデマンドタクシーです。低料金でタクシーを活用いただく、という方法も出てきた。中津川の広いエリアでこの地域だけというのもできないが、モデル的にこの地域でという形になる可能性もあると思っている。

蛭川は、バス会社で最近本数を減らしたり、路線を変えたりした。その中で、バスがカラで走ることもある状況も出てしまっていたちごっこ。毎年修正しながら使っていただきやすい方法で対応しているが、なかなか追いつかない。

●〇〇さん

利用が少なくなると悪くなるということは重々承知しているが、その考え方が、たとえば高校の通学バスに関して親がなかなかそういうふうになってくれない。親が迎えに行ってしまうとそのほうが楽だからバスを利用しないという方も増えてきている。

●〇〇さん

バスで通学すると高いバス代がかかるが、自分の都合さえ合わせればガソリン代と時間だけで済むからバスを使わない、という声も聞きます。そうすると、高くしないと運営できないかもしれないが、高いから利用しないという方が増える。時間の自由の欲しい方はバスを使わざるを得ないが、時間の都合のつく方は高いバスを利用しない。

●市長

高校時代乗っていたが、以前の北恵那電車の時代から、日本一高い電車でした。こういったことが面積の広い地域の問題です。だから人口減少は大きな問題なので、住んでいただく施策を進めていかなければならない。交通は生活のための一つの手段ですのでそれが途切れないようにどこかで人口減少に歯止めをかけなければいけない。

国はコンパクトシティという考え方です。富山市が一番進んでいます。中心から半径5キロほどの中に移り住んでください、生活の利便性を高めるために中心市街地に近いところに集まってください、と

ということです。これは国もすすめた。中津川市もやれと言われた。加子母からここに移りませんか？というときに移転費用として500万円とか保障しましょう、というやり方です。これに対しては、676平方キロの中に住んでいるみなさんのどこを中心にして集まるのか。またみなさんを中心地へ集めてくるといことは良いか、悪いかの議論からしていかなければならない。行政としては、下水や水道整備、道路整備、すべてがコンパクトにまとまるわけですから楽です。だんだん点在する家がなくなるというやり方で、国は6、7年前から言っている。そこが好きで住んでいる人に対しては国側だけの都合でいいのかという議論も出てくる。

●〇〇さん

先ほど話が出ていた児童館は、中津川には東児童館や西児童館がありますが、恵北地区にはないので小さい子どもを連れてお母さんが行くところがない。こちらでも支援センターで子育てサロンもやっていますが、それは日にちによって開催されるので、街中にあるような児童館が恵北地区にもあるといい。そういう場所をつくることは大切です。

●〇〇さん

1人目が生まれたときには子育てサロンなどの情報がわからない。2人目の頃に1人目の友達のお母さんにイベントを聞くことができた。有志の方がやっていることだと思うが、第1子のときに、3か月健診とかで、そういうことがあることをお知らせいただいた。第1子のときから情報をいただくと家にいるだけじゃなくて、そういうところに出かけられるだけでも、気分転換になってきます。

付知だけのものもあるのですが、結局友達のお母さんから聞いて第2子から連れて行きました。書いてあるけど行きづらいこともあるので、お知らせはいただいているがもっと積極的にいただけると行きやすいです。

●市長

合併して思いの壁、地域の壁と言いましたが、行政の制度の壁も大きい。出産されると担当部署はお母さんの母体の健康、赤ちゃんの健康、その先の定期検診健診の話はするが、今のような話はなかなか出てこない。それも一緒に話ができるように持っていけないかな、という思いはある。お知らせはなんらかの形でしているが、全部目を通していただけないのも現状なので、一言添えることができればと思います。

●〇〇さん

民間では、子どもの少し上の世代が中心になっているサークルがあるので、保健師さんより話しやすいということもあります。本当に1、2年前のことをすぐ話してもらえて参考になるので、お知らせの機会を作ってもらえれば行きやすいと思います。

●〇〇さん

一人目が中2なので来年高校受験に向けてというところです。高校の数が少ないという狭い選択肢の中で将来に向けて選んでいくなか、子どもの意思と親の意思があって、自分が行きたい学校と親が行か

せたい学校とあるが、どうしても交通の便を考えると、消去法の選択になってしまう。もう少し生活スタイルや子どもの行きたい選択肢がいろいろあるといい。

#### ●市長

ここに住む理由、というものがあって住む場所を選ばれる。とりわけ若い方はいろんなものを見比べる。ここは、近いものはあるけどまさに求めるものはない、生活を取りまく自然環境は捨てがたい、などいろんな判断はあるが、すべてを満たすことは不可能です。中津川市の街の特性を認めていただき、できる範囲の中では自立していく。それしか無理です。同じ東濃というひとくくりでも多治見市のコンパクトな街と恵那・中津川のように広がった街とでは同じことをするのは無理。中津川から瑞浪への特に女性の転出が増えています。最初は中京学院大学の短大かな、と思ったがいきなりこんなになるわけがないので、これまでと違う傾向が出たのでこれが何かということはしっかり把握しなければならない。

#### ●政策推進部長

瑞浪の資料があって、瑞浪へ転入した人の理由として「通勤・通学がしやすい」という回答がダントツに多かった。名古屋からの電車で瑞浪止まりが割と本数があってそこから先が少ないということがあるのかもしれない。交通の便がいいから引っ越してきたということが瑞浪市の住民の調査のなかにあります。

#### ●市長

今、中津川の街の中に赤ちゃん用品の専門店が進出してほしいという話をよくします。中津川市にも来ていただきたいという話を企業にしましたが、恵那市にあるから中津川市にはできないと言われました。そんななかリニアの駅が決まったのでもう少し様子見、という話をされました。そしたら瑞浪にできたので、その理由を確認してもらったら、若い方が、とのことでした。それが今回の（女性の瑞浪市への移住）データにも出ていた。われわれより商業をやっている人はデータを持ってみえる。若い方への定住ということがあるので存在感のある赤ちゃん用品の専門店に来てほしい、機会があれば来てくださいと、これからも言い続けていきます。それぞれの年代に合った便利だなという店をそろえたい。行政だけではできないが、民間の専門性を中津川市で展開していただくなかで、街の魅力ができてくる。それをするにはさまざまな観点があるが、商売になるかどうか大きな判断材料になる。判断材料のベースが上がるようなまちづくりにもっていきたい。ですから、子どもさんたちには中津川市から出ていくな、と言ってください。

## 2. 防災対策について

#### ●生活環境部長

今年は特に台風シーズンの最後に台風が来た。市内でも農業で若干被害が出た。一番大事なのは自分が住んでいるところでどこが危ないのか把握していただいて、逃げるところも避難所だけではなく、途中に川があったりすることもありますので、危ないということも把握していただいて、安全な方向へ逃げるのが第一です。

●市長

自宅の周辺でここは危ない、ということ把握されていますか？

●防災安全課長

出前講座でお話させていただいていますが、ハザードマップを区の単位で作っています。自分の家がイエローゾーン、レッドゾーンに入っていないか、地区の集会所が入っていないかホームページで一度ごらんいただきたい。土砂災害警戒区域とって、土石流、地滑り、がけ崩れの危険区域がありますが、県が指定した場所で市内では700箇所あります。レッドは人的被害が発生する可能性があるところ。イエロー、レッドに入っていて、避難情報が出されたら避難してください。自宅が、イエローでもレッドでもない。また急傾斜地が近くにはなかったり、川の近くでなければ自宅に留まるのが一番安全です。こうしたことを平常時から確認しておいてください。

市が指定した指定避難所位置情報もマップに入っていますので、自宅から避難所へ避難する際の経路に危険箇所がないか、ということもあわせて確認いただければと思います。意外と避難3情報が知られていないので、今年は5月に回覧、6月、8月の広報なかつがわに載せました。注意報、警報は気象台から出されるが、避難情報は市から発令されます。避難指示になると、すでに土砂災害が起きていたり、あるいは起きてもおかしくない状況です。避難勧告は土砂災害警戒情報が気象台から発表されて、危険な区域の、時間降雨量と土壌雨量指数でがけ崩れの危険が高まったという状況になるとその地区に避難勧告を市から発令します。これが出たら自宅がイエロー、レッドの場合は避難してください。

今年も4回避難情報を出したが避難者が非常に少ない。8月4日に坂本地区に避難情報を出したときは避難者はゼロでした。8月7日の台風による避難準備情報を全市に出しましたが、避難されたのは9世帯。8月15日の豪雨は蛭川に避難勧告を出したが1人。10月22日蛭川に避難準備を出しましたがゼロでした。実際、避難情報を暗くなってから出したのと、雨が小康状態になっていたこともあるが、自宅が危ない区域にある場合は避難行動をとっていただきたい。

●〇〇さん

女性消防団に入っていて、いつも職場の地域の防災訓練に出ているが、今回は地元のほうに出ました。避難は、本当は最初から避難所へ行かないといけませんが、避難所に行く前に、一回集まってから行った。地域の人たちが、誰々さんが来ていないから呼んでくるわ、という感じで声をかけあう状況ができていて、地域でつながりができていると感じました。

そのあと防災訓練で、消防団なので水消火器の講座をやらせてもらいました。女性消防団で年に1回講習を受けたりする程度なのですが、制服を着ているのでいろいろ質問されて、小さい子どもを連れてお母さんが、「子供が突然息ができなくなったらどうしたらいいですか」、と真剣に聞いてくださったり、防災訓練がちゃんと意味があると思ったし習ったことを教えることができました。

女性消防団は30人くらいいるが実際に活動しているのは十数人。男性は火を消したり救助したりしているが、いざというとき働きに行っていないので、地域に密着している女性にももっと参加できる環境があっがいい。消防団は3年目だが、とくに大きいことはやっていないので、1人1人の力が大事。女性にもできることがあると思うので、やれたらいいと思います。



地域の防火クラブに入っている方がけっこういる。中津川でもいろいろやられている。いざ、自分が被害にあったときに、どんなことになるのだろうと思うが、ここで出動といわれてもできない。この状況でできることがやれていたり、助けられたりするといいいと思います。

●市長

〇〇さんも防災士ですが、防災士は災害のときに現場でアドバイスをいただいたりしています。

被災した石巻の行政の方で国のワーキンググループにも入っている方がその経験を、昨年中津川市で講演してくれました。石巻の職員も市民の安全のためという役割を持っていても、職員の半数は動けなかった。東日本のような震災が来たら、災害対応ができない職員の方が多くなってしまふかもしれない。地元の消防団、防災士、女性消防団、みなさんの力を借りないと行政だけではお手上げです。

東日本大震災のときは地震と津波の被害が広範囲だったが、中津川市では山津波というものもあるがあれだけ広範囲は考えられない。そうになると、冷静になって考えないといけないのは、全域で孤立状態になって物資が足りない、ということが中津川市で発生するかどうかということ。各地域への道路を考えたときに地震で橋が落ちるかもしれない、土砂崩れで道路が寸断されるかもしれないという、地域ごとでの対応をしっかりとすることが中津川市では必要です。全滅になることの可能性は低く、同じ市内の中からも応援に駆けつけられると思う。そのしくみをつくるのが大切です。

裏の山が崩れたりしたときは、とにかく命を守る。まず避難する安全な所が避難場所。一定の期間避難して生活をする場所が避難所。まずは避難所へ行ってくださいじゃなくて安全な避難場所へ行ってください、ということをおわかってください。

●〇〇さん

付知だけかもしれないですが夏休みの終わりに避難経路を確認してくださいというのがあります。こどもの宿題のようなものですが。

●生活環境部長

学校ごとに取り組んでいるところもあります。防災訓練のメニューにもいろいろあり、避難行動とかいろんな対応を地域ごとに考えていて、一斉に同じことをやるということではないです。

●〇〇さん

ハザードマップを見ると、付知南小学校が避難場所になっています。避難経路も通学の道しか行かないので、通学路もイエローやレッドにかかっているかもしれない。そのあたりも確認しないと、わたしも初めて見たが、知らない人も多い。資料として付けていただければ見方も変わると思います。家の場所の確認も含めて、学校に提案してみたい。

付知だけかもしれないが、毎年同じ紙がきて、第一にすること、第二にすること、あなたの分担は何と、書くことが毎年同じでマンネリ化しているので、変えてもらえると意識が高まるかもしれない。私たち親も真剣に考えないといけないと思う。

●生活環境部長

学校のほうに一度確認してみます。大事なことはいつも同じ条件下で同じことが起こるわけではない、時間で変わるかもしれない、外の状況がどうかもそのときで違う、雨が降ってないが水量は多いかもしれない。こういう場合はどこが危ない、といういろいろな想定をして避難経路を確認してもらう図上訓練がある。いろんなパターンを想定してもらうことが大事だと考えています。

●〇〇さん

今年は雨が降った場合、今年は地震など想定を変えてハザードマップを見ながらやっていくといいと思う。

●〇〇さん

もし地震などが起きた場合、道路のどこが寸断されて通れない、などの情報はどうやって得られますか？寸断されていると避難経路でも通れないことになる。

●防災安全課長

市が設置する災害対策本部が知り得た情報は、防災行政無線や市民安全ネットワークのメール配信、ヤフーの災害情報ブログで発信しています。

●生活環境部長

ここが崩れて通れないという情報が災害本部に来るのもいつかわからない。同時多発的に起きた場合は把握に時間がかかる。情報が流れる前に逃げようとしたら、通れない場合もありえる。職員すら市役所へいけない場合があるのでその一報を災害本部、市役所へいただきたい。

●司会

ここからはテーマフリーでお話してください。

●〇〇さん

先ほどの避難3情報は市政懇談会では話していますか？

●防災安全課長

今年から市政懇談会も地域ごとのテーマ別になったので何箇所かでは話しています。

●〇〇さん

区長がこういう話を聞いてきて町内会に話をしてくれると広がりやすい。区長さんも把握していただくと動きやすい。

●市長

今年は、防災は話題としては多かった。中津川市内も83年前に四ツ目川の災害があった。そのことを忘れないように災害対策協議会という市民の会が、毎年、自分たちの活動報告をしています。四

ツ目川の上の方に遊砂工という堰堤の大きなものがあって、川全体にマス目がコンクリートで作ってあります。親水公園みたいのところだが、年に1回、そこで小学生や幼稚園の子供を呼んで、災害メカニズムの勉強をしたり、地震の体験や土砂災害の教育を国交省で大々的にやっています。そこで言われることは、自分たちの地域は自分たちで守ろう、自分の家を中心とした道を自分たちで確保することが大事ということです。

●〇〇さん

乳幼児学級で、2人の子どもを育てているお母さんから、中津川市街には公園があつていいが、川上には集まれる公園がなくてそれを増やしてほしいという声がありました。第2子の保育料が半額という話があるが、第1子や小学生まで広がるとありがたいという話がありました。

●市長

国も子育てに関する無料化の話をしているが、今日の資料にも、住まい、教育、仕事、育児、暮らしのたくさんのが載っています。中津川市でもいろんなメニューがあります。よく街どうし、行政どうしを比べて、他にあつてうちがない、という話が出ますが、中津川市には他にあつてうちがないものはほとんどないです。むしろ充実しているということを知ってもらいたい。

遊ぶ場所について、屋根がある無いの違いは大きい。都会の方からすると、川上はどこへ行っても公園のようだというが、安心して遊ばせるのも大事な観点。

一つ聞きたいが地域の集会所は子供には解放されていない？集会所や区民会館は十分こどもが遊べるところだという認識です。

●〇〇さん、〇〇さん

借りる手続きが要ります。鍵がかかかっていて申請も面倒。

お金を取られたりはしないが手続きしてきれいにして返すので面倒。

地域の行事で借りて遊ぶことはあるが、普段遊ぶところだと思ったことはない。

●市長

年配の方と話すとき子供が少ないから何とかしてくれと言います。広々とした集会所は避難所でもあるので提供して遊んでもらえれば子育てのみなさんには一番近い安全な場所だと思う。使った方が建物のためにもいいと思う。

●〇〇さん

毎月中津川市の広報がまわってくるがなかなか目を通せません。時間があるときは興味のあるところをチラッと見て、最後の市長さんのページを見たりしますが。みなさん、なかなか読み物を見ないが、スマホの情報は見るので、全情報をスマホで流すことは無理でも、今月の広報にはこんなこと載せてますよ、というのをお知らせすると興味がある人は見に行くのでは。

●広報広聴課長

現在は、市民安全ネットワークでイベントをお知らせしているのですが、こちらからメールを送って必ず届きます。スマホは、見出しだけ送ったとしても市のホームページに見に来てもらわないとみてもらえないことになってしまいます。

●〇〇さん

知りたいことがあるときはホームページを開いて探すけど、市から今月はこの部分を知らせたいということがあったときに情報をもらおうと見てみようかな、と思います。行政側としてはみんなにいろんなことを知って欲しいと思っていると思うが、自分が欲しいと思わないとホームページまで見ない。

●〇〇さん

だからこそ月初めに広報の見出しだけでも送っては。

●広報広聴課

イベントメールはパケット代がかかることを考えて必要最低限の配信としています。例えば、イベントメールに広報の見出しだけ付けて、URLを押すと詳しいことが見えるというような形とかでしょうか？

●〇〇さん

特集を組まれたようなことを書いて欲しいです。毎月のイベントはイベント情報でもわかるので特別なことがわかればと思います。

●〇〇さん

園児の子どもたちがけんぱちが好きで、イベントがあるとシールやファイルをもらってきて喜んでいきます。もっと浸透させるには着ぐるみを作ったりして欲しいです。かわいいキャラクターだと思うので、小さい子どもたちから浸透させるといい。

●市長

健康でいることが一番大事ということで、健康都市宣言をした平成27年にけんぱちをつくりました。これからもけんぱちを表に出しながら健康であってほしいという取り組みをしていきたい。

ぜひけんぱちシールを貼ってけんぱちポロシャツを着てください。

●懇談を終えての市長挨拶

みなさんありがとうございました。

合併して13年。人にたとえるとやっと中学生です。これからもっと成長していく過程です。そんななかで人口減少という大きな課題を抱えています。10年前から人口減少はわかっていました。先進地と言われるヨーロッパでは人口6,000万でもしっかりと存在感のある国もあるので、日本もそんなに心配することもないだろうと、静かなる危機と言われました。しかし、消滅可能性都市ということが言われました。20歳から39歳の女性が20年後に50%以下になってしまうのが消滅可能性都市で

す。東濃5市のうちで3市です。中津川市は入っていないが48.4%なのでほとんど変わらない。

リニアの岐阜県駅と車両基地ができます。リニアだけで活性化できるとは思っていない。リニアへの不安も解消しながらこれからのまちづくりに生かしていく施策をとっています。人口減少がもたらすさまざまな課題は、身の回りでは、みなさんの周りの商店がなくなっていく、学校の問題、医療の問題、生活を取りまくシステムに大きな影響が出てくる。全国の自治体が躍起になって人口対策を行っています。国も東京から地方へ移譲すると言っていますが実際は逆になってしまっていて、東京はどんどんきれいになる。若者が大きな街に魅力を持つのはいたしかたない。生まれ育った人がなるべく若いうちに中津川市へ帰っていただいて親の近くで生活する。または、同じ家で生活する。それに耐えるだけのインフラ、環境整備をした中津川の街をつくっていききたい。

これからやらなければならないことはたくさんあります。また将来への投資、現在かかえているさまざまな課題を解決しながら、あるべき姿を実現するために進んでいきます。こうした懇談会、またみなさんとお会いするときにあれはどうなった？でも結構ですので、ぜひこれからのまちづくりに皆さんにも参加していただきたい。興味を持っていただくことが大切なのでぜひご意見をください。行政へのご理解とご支援をいただきますことをお願いもうしあげましてお礼のことばとさせていただきます。